



認定特定非営利活動（NPO）法人 柔道教育ソリダリティー

Newsletter vol. 18

Certified NPO – Solidarity of International Judo Education

①三春大会に参加したモンゴルチーム(福島・田村郡三春町) ②リサイクル柔道衣贈呈式(コスタリカ・サンホセ) ③第17回講演会(東京・千代田区)
④リサイクル柔道衣贈呈式(コンゴ・キンシャサ) ⑤青島市第十九中徐殿平柔道館(中国・青島) ⑥日中友好南京柔道館(中国・南京)

国際的な柔道の普及「自他共栄」を実現するために

—To promote the international popularization of judo and realization of *jitakyoei* (mutual prosperity for oneself and others).

オリンピックスポーツとして世界の多くの人に愛好されている柔道。国際柔道連盟(IJF)には、201の国と地域が加盟しています(2015年度現在)。本法人は、講道館柔道創始者、嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。柔道を通して世界中の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することの近道と考えています。

柔道を通して日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたい

—We communicate the Japanese spirit.

現在の国際情勢を考えると、紛争やテロ、地球環境の劣化、南北格差拡大、人口増加など問題が山積みです。そんな状況の中、多くの発展途上国では柔道指導者、柔道衣、畳、教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状があります。本法人は支援活動を展開し、柔道を通して日本の心を伝え、多くの国、地域との文化・スポーツ交流を推進します。

今、大切なことは、子どもたちをいかにして育てていくか

—Educate youth through judo.

本法人は、柔道を通して人間教育を実践します。特にこれからの社会を担っていく青少年の育成は、何よりも重要です。柔道によって、元気で明るく、たくましい子どもたちを育て、その輪を広げていきます。

※柔道教育ソリダリティーは、2014年1月27日、神奈川県から継続認定を受けました。本法人へのご寄付は、寄付金控除、損金算入などの税の優遇措置の対象になります。



特定非営利活動法人(神奈川県認定)
柔道教育ソリダリティー

認定特定非営利活動法人

柔道教育ソリダリティー会報第18号

2015年10月1日発行 Published 1st of October 2015

発行人: 山下泰裕

発行所: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

東海大学 体育学部 柔道研究室

Address : 4-1-1 Kitakaname, Hiratsuka-shi, Kanagawa
Japan, 259-1292

T E L : 0463-58-1211 (内線3524)

F A X : 0463-50-2230

Email : judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

Vol. 18

<http://npo-jks.jp>

柔道 友情 平和

検索

柔道教育ソリダリティー役員 Official of Solidarity of International Judo Education

第10回通常総会（2015年5月28日開催）で役員が承認されました。就任期間は、2015年7月1日～2017年6月30日の2年間です。

理事長

山下 泰裕（(学)東海大学理事・副学長、全日本柔道連盟副会長）

副理事長

橋本 敏明（(学)東海大学常務理事・体育学部教授）

理事

岩田 天植（(株)博報堂DYメディアパートナーズ執行役員）

小川 郷太郎（(株)絆郷 代表取締役）

加藤 暁子（日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長）

仙石 通泰（(株)三技協 代表取締役）

早川 信正（早川繊維工業(株) 東京支店 専務取締役）

蓑宮 武夫（(有)みのさんファーム 代表取締役）

上治 丈太郎（ミズノスポーツ振興財団 評議員）

小田 全宏（NPO法人日本政策フロンティア 理事長）

阪 和彦（アスカコーポレーション(株) 代表取締役）

高木 善之（NPO法人 ネットワーク「地球村」 代表）

中村 潔（(株)電通 執行役員スポーツ局長）

矢野 弘典（(公財)産業雇用安定センター 会長）

監事

小出 将恵（小出会計事務所 所長）

金子 正志（金子正志法律事務所 所長）

（50音順）

主な活動（2015年1月～2015年6月） - Major Activities -

年 月 日	事 業 内 容
2015年1月	リサイクル柔道衣9着がケニアに到着（ケニア・ナイロビ）
2015年1月11日	留学生柔道体験教室を開催（東海大学）
2015年2月1日～22日	ミャンマー男子ナショナルチーム7名を受入れ（東海大学等）
2015年2月7日～9日	モンゴル男子ナショナルJrチームが来日、柔道練成三春大会に参加（福島県・三春町）
2015年3月	リサイクル柔道衣50着がコンゴに到着（コンゴ・キンシャサ）
2015年3月2日～11日	日中友好南京・青島柔道館へ指導者及び学生ボランティアを派遣
2015年3月20日～4月20日	コスタリカ男子柔道選手を受入れ（東海大学等）
2015年3月29日～4月11日	セネガル女子柔道選手を受入れ（東海大学等）
2015年4月3日～22日	ギリギス女子ナショナルチームを受入れ（東海大学等）
2015年5月28日	宮嶋泰子さんを講師に迎え、第17回講演会を開催（東京・千代田区）
2015年5月28日	第10回通常総会を開催（東京・千代田区）
2015年6月	アルゼンチンにリサイクル柔道衣30着が到着（アルゼンチン・ブエノスアイレス）
2015年6月	コスタリカにリサイクル柔道衣100着が到着（コスタリカ・サンホセ）

1. 日中友好青島柔道館の徐殿平館長と事務局の光本恵子事務局長と小澤浩子
2. 第10回通常総会で挨拶を行う山下理事長

1. Xudian Ping, head of the Japan-China Judo Friendship Center in Qingdao with Keiko Mitsumoto, head of the office, and Hiroko Ozawa
2. Board chairman Yamashita greeting attendees at the 10th ordinary general meeting



第17回講演会

2015年5月28日、東京都千代田区の日本外国特派員協会にて、第17回講演会「TOKYO2020オリンピック・パラリンピックに向けて、今考えよう！スポーツって何？」を開催しました。全日本柔道連盟MINDプロジェクト会議メンバー及びコンプライアンス委員会メンバー、テレビ朝日スポーツ局スポーツコメンテーターなどを務めておられる宮嶋泰子さんが話しました。

Our 17th seminar "Considering the Tokyo 2020 Olympics/Paralympics. What is sport?" was held on May 28, 2015 at the Foreign Correspondent's Club of Japan in Chiyoda, Tokyo. Yasuko Miyajima, a meeting member of the All Japan Judo Federation MIND Project, compliance committee member, and TV Asahi sport channel sport commentator gave a talk.



講演で語る宮嶋泰子さん



会場には100名あまりの人が集まりました

5月28日(火)、東京都千代田区の日本外国特派員協会にて、全日本柔道連盟MINDプロジェクト会議メンバー及びコンプライアンス委員会メンバー、テレビ朝日スポーツ局スポーツコメンテーター、日本女子体育大学招聘教授、順天堂大学客員教授としてご活躍されている宮嶋泰子さんを招き、第17回講演会「TOKYO2020オリンピック・パラリンピックに向けて、今考えよう！スポーツって何？」を開催しました。講演会には、100名ほどの聴講者が集まりました。

始めに、山下理事長が、全日本柔道連盟として日本の柔道界から暴力を根絶するプロジェクトを立ち上げ、この時に宮嶋さんに外部の有識者として参画をお願いした経緯を話しました。その後、「柔道マインドプロジェクト」として活動内容と名称を変更し、礼節を重んじ品格のある柔道界を目指す活動を行っている」と説明し、「宮嶋さんには『柔道マインドプロジェクト』の特別委員会のメンバーとして常に貴重なご意見をいただいております」と講師の紹介を行いました。

宮嶋さんは、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに向けて、『スポーツの原点とは何か？』をテーマに、様々な例を挙げ話しました。

スポーツを楽しむことを目的としたヨーロッパの文化について、ロンドンオリンピックの取材の中で「ヨーロッパには人間の身体と、その運動を愛でる文化がしっかりと根付いている。スポーツを楽しむということが、子どもから大人まで当たり前のように出来る。そこに、日本と違うスポーツの文化的価値があると感じた」と話しました。

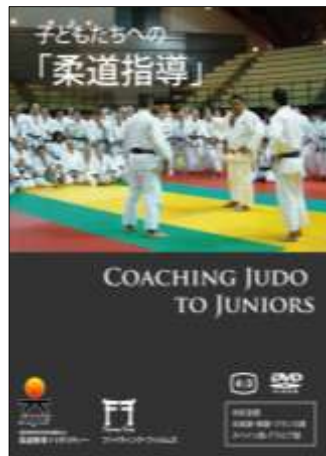
そして、日本のスポーツの歴史として、1912年に日本が初めてオリンピックに出場した当時の日本のスポーツ界の状況を説明し、嘉納治五郎師範がオリンピック参加へ向けて日本体育協会を創設し、その働きかけにより、1940年の東京オリンピックが実現したことを話しました。

最後に、嘉納治五郎師範が残した「柔道が強くなったからと言って、自然と品位が備わるわけではない。技術の上達で勇氣は身につくが、倫理は身につかない」という言葉を紹介し、技と品位の両方を身に付け、人間教育としての柔道に立ち返る「柔道マインドプロジェクト」のムーブメントについて、現場の話を交えて話しました。

教材制作事業

イギリスのファイティングフィルムズ社よりDVDの版權をいただき、『子どもたちへの柔道指導 Coaching Judo to Juniors』の制作を行っています。

We are currently creating a video "Coaching Judo to Juniors" after obtaining copyright permission to use DVDs from English company Fighting Films.



このDVDは、ファイティングフィルムズ社及び博報堂メディアパートナーズの協力の下、「子どもたちへの柔道指導」を目的に、IJF教育コーチングセミナー(2005年)の内容をまとめたものです。世界の柔道指導者のために、「子どもたちに柔道を楽しく教える。伝える」ことを目的に製作されました。ミッシェル・ブルース(IJF研究者・メディアコミッショナー(当時)・ボルドー大学教授)、フランコ・カブレッティ(イタリア柔道連盟副会長)、ピーター・ガーディナー(スコットランド柔道連盟・指導者育成マネージャー)らがコーチング方法を紹介しています。

本法人は、「子どもたちへの柔道指導」の普及を目指し、全日本柔道連盟と協力し、教育機関などを中心に、必要に応じてDVDの無料配布を行う予定です。

DVDは、日本語・英語・フランス語・スペイン語・アラビア語に対応しています

柔道用具（リサイクル柔道衣・畳）支援事業



ケニア

Republic of Kenya

2014年6月にJICA「世界の笑顔のために」プログラムを通して送付した、リサイクル柔道衣9着が、2015年1月に首都ナイロビに到着しました。JICAケニア事務所を通し、ケニアの子どもたちに贈呈されました。

2014年6月、ケニア・ナイロビに送ったリサイクル柔道衣9着が2015年1月に無事到着しました。この柔道衣は、JICA(国際協力機構)の“Smile for All in the World”あなたのやさしさを世界へ「世界の笑顔のために」プログラムを通して送られました。JICAケニア事務所より、ケニアの柔道家に渡った柔道衣の写真が届きました。



初めて柔道衣を着た子どもたち



ASANTE SANA!!!! (ありがとうございます!)



ナイジェリア

Federal Republic of Nigeria

2014年11月にナイジェリアに送付したリサイクル柔道衣50着が、2015年2月に首都ラゴスに到着しました。この柔道衣支援は、東海大学職員の山口輝義氏を通じ要請を受け実現しました。ナイジェリア警察のインヤン・ウーセン氏の協力の下、ナイジェリア警察へ贈呈されました。



無事に到着した柔道衣を着て



コンゴ

Democratic Republic of the Congo

2014年1月にコンゴ共和国へ送付した、リサイクル柔道衣50着が、2015年3月に首都キンシャサに到着しました。この柔道衣は、JICA事務所の興津圭一氏が運搬して下さいました。



贈呈式に集まったオントラ(ONTRA)柔道クラブ、カウカ(KAUKA)柔道クラブの皆さんと

キンシャサ市、教員養成大学(ISP Gombe)で行われた柔道衣の贈呈式には、コンゴ柔道連盟会長ビンワラ・ワンバ・フランシス氏、近隣のオントラ柔道クラブ及びカウカ柔道クラブより約50名の柔道家が集まりました。贈呈式では、牛尾滋特命全権大使を通し柔道衣の供与が行われました。柔道衣を着た子どもたちによる打ち込み、稽古、乱取などの披露、大人による型の披露が行われ式典は盛況に終わりました。

Judo Recycled Judogis and Tatami



アルゼンチン

the Argentine Republic



柔道衣の引き渡しが行われた在亜日本人会にて

2014年11月にJICA「世界の笑顔のために」プログラムを通して送付した、リサイクル柔道衣30着が、2015年6月にアルゼンチン・ブエノスアイレスに到着しました。JICA日系社会シニアボランティアの及川さんの協力の下、アルゼンチン柔道連盟へ贈呈されました。

JICAアルゼンチン事務所 武田浩幸所長

この度は、平成26年度第2回「世界の笑顔のために」プログラムにおきまして、物品寄贈をいただき厚くお礼申し上げます。申請したボランティアや関係機関のみならず、私どもJICAアルゼンチン事務所関係者一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

アルゼンチンは、日本から遠く離れた国ですが、120年以上にも及ぶ日本人移住の歴史があり、約5万5千人の日系人が在住しています。その勤勉、誠実な仕事ぶりは、当国の地域社会で非常に高く評価され、日本とアルゼンチンの懸け橋として重要な役割を担っています。ご支援いただいた物品は、アルゼンチンにおける日系社会の発展、そして両国の文化交流・友好親善のために有効に活用させていただく所存です。

日系社会シニアボランティア 及川さおりさん

この度は、貴重な柔道衣をご提供いただき、誠にありがとうございます。柔道衣は、首都ブエノス・アイレス市内の在アルゼンチン日本人会館に運ばれ、無事に柔道愛好家たちの手に渡りました。現在、柔道連合会のメンバーは、柔道衣に身をつつんで日々稽古に励んでおります。当地で柔道衣を入手するのは困難なことから、貴法人はじめ日本の皆さまからの温かいご支援、柔道衣の寄贈を受けたことに、皆で大変感謝しております。頂いた柔道衣は、各団体の管理の下、大切に使用させていただくことになりました。



アルゼンチン柔道連盟

JICAを通じて送付いただきました柔道衣30着の寄贈につきまして、心からお礼申し上げます。これからは、2014年JICAシニア海外ボランティアとして派遣されました菊池正敏先生が巡回して指導されました当柔道連盟の加盟道場に配布いたします。

また、これらの柔道衣は、アルゼンチンにおける柔道の普及と発展に貢献するものであり、当連盟はこの柔道衣が正しく利用・管理されることを保証致します。



コスタリカ

Republic of Costa Rica

2015年1月にコスタリカへ送付した、リサイクル柔道衣100着が、2015年3月に首都サンホセに到着しました。在コスタリカ日本大使館を通し、国立サバナ第一体育館にて贈呈式が行われました。



寄贈式に出席して下さった篠原守コスタリカ特命全権大使と記念撮影

在日本大使館 河本秀夫氏

2015年6月20日、コスタリカ国立サバナ第一体育館において、その寄贈式が行われました。篠原大使が出席した他、ヘンリー・ヌニェス・コスタリカオリンピック委員会会長、ドゥドリー・ロペス・コスタリカ柔道連盟会長及びコスタリカの青少年柔道家とその家族等約300名がこの式典に参加しました。

この寄贈式で篠原大使より以下の挨拶がありました。
「柔道は、嘉納治五郎先生が、広く世界に普及し、1964年の東京オリンピックで正式にオリンピック競技種目となりました。今では世界で最も多くの愛好者を擁する武道・スポーツのひとつになっています。日本では、柔道は単なる格闘技ではなく、その練習を通して身体・精神の鍛錬することも目的とされており、コスタリカにおいても柔道を通じて青少年の健全な育成に寄与することを願っています」

日本大使館はスポーツを通じて日本とコスタリカの関係強化を図り、今回の柔道連盟への支援の他、サッカーコスタリカ代表チームの日本招へい、コスタリカ体操協会強化選手の訪日合宿等を支援しております。今後も日本とコスタリカ両国の友好親善と文化・スポーツ交流の促進に貢献して参ります。

外国への指導者派遣事業

2015年3月2日～11日の期間、日本文化大学専任講師の濱名智男氏、光本健次国際担当師範、学生ボランティアとして東海大学体育学部2年の佐々木浩太郎君を日中友好南京柔道館及び日中友好青島柔道館へ派遣しました。

From March 2 to 11, 2015, Tomoo Hamana, full-time lecturer at Nippon Culture University; Kenji Mitsumoto, master in charge of international affairs; and Kotaro, Sasaki, sophomore at Tokai University, Physical Education department, acting as a student volunteer, were sent to the Japan-China Judo Friendship Center in Nanjing and Qingdao.

濱名智男氏の報告です



100名以上が参加者した柔道教室(南京柔道館)



指導を行う濱名先生(青島柔道館)

2015年3月2日から3月11日まで、中国の江蘇省南京市及び山東省青島市の日中友好柔道館に派遣していただきました。両市では、柔道を正課授業として取り込む小中学校が増えており、短期間に柔道が広く普及したことによって指導者不足なのが現状です。そこで、指導者の育成が急務であることから、この度の派遣に至りました。

はじめに訪れた日中友好南京柔道館では、4日間に渡ってコーチングセミナーを行いました。受講生は南京市及び江蘇省所属の指導者が中心で、開講式に続き、光本先生による南京柔道館設立の経緯、柔道の歴史等についての講義から始まりました。実技指導では、初心者が安全に楽しく柔道に親しむための指導法に重点をおき、道場の安全管理、ウォームアップ法、礼法、姿勢、体さばき、受身、また固技、投技の指導法、更には投の形、審判法を指導しました。連日、中学生や体育学校の選手が参加し、受講者が140名を越えた日もありました。

今年で設立5周年を迎える南京柔道館での少年・初心者クラスの指導状況も視察しました。設立当初は僅か数人であったという生徒は現在なんと1,000人を超えています。館長である劉俊林先生の指導のもと、日本で研修を重ねた常東先生が、中国で「教育としての柔道」を広めていきたいとの信念を持ち、それを実践している姿には大変感銘を受けました。

次に訪れた日中友好青島柔道館では、2日間でコーチや生徒に基本指導を行いました。ここでも除殿平館長指導のもと、王華先生はじめ、沢山の若い指導者がより良い柔道の普及を考え、真摯に柔道と向き合っておられました。

正課として柔道を取り入れている小学校を視察した際には、「柔道体操」を拝見いたしました。この学校では毎朝全校生徒でこの体操を行うとのこと。校長先生は「柔道は人格的にも体力的にも人を強くするので、今後更に力を入れていきたい。そして行く行くは日本の小学校とも交流を持ちたい」と語っており、まさに教育的な柔道の普及とそこから生まれる日中友好の兆しが伺え、柔道教育ソリダリティー事業の素晴らしさを再認識いたしました。

今後益々柔道を通した国際交流の輪が広まることを期待しますとともに、この度の事業に派遣いただきましたことに心から感謝を申しあげます。

光本健次国際担当師範の報告です

中国の南京及び青島にて指導者研修会の開催及び視察を行いました。指導陣には日本文化大学の濱名智男先生にもご協力いただき、少年指導法や形などをご指導いただきました。

日本と中国の関係はまだ近くて遠い国であり、反日感情も根強く、日本企業や大使館・領事館が民衆の暴徒によって破損される事件が起きています。この二つの柔道館は単に柔道の技術指導を行うだけの施設ではなく、柔道を通じた交流によって「柔の心」「和の心」「日本の心」を伝えたいという山下理事長の想いが根底にあります。両道場には日中両国の国旗が掲揚されており、嘉納師範の「精力善用」「自他共栄」の言葉も掲げられています。ここで中心となっている若手指導者は、南京は男性の常東君と青島は女性の王華さんです。彼らは、東海大学で日本語や柔道指導法などを学び、地元の柔道クラブで半年間研修しました。南京の常東君は、帰国後も日本語学校に通い、日本語を忘れないように努力しているそうです。

道場は子供たちが掃除して整理整頓が行き届いています。挨拶や礼を大切に、私たち日本の指導者にもしっかり挨拶をしてくれている子どもたちの姿に、反日感情は全く感じられず、柔道の教育的効果、柔道が持つ国際貢献を強く感じました。

両市では、柔道を正課授業として取り込んでいる小中学校も増えており、短期間での柔道の広がりは驚くばかりでした。今年、南京柔道館は設立5周年を迎えましたが、学校教育機関も含むと生徒数は1,000人を超えるそうです。館長である江蘇省トップの劉俊林先生のご努力はもちろんですが、日本で多くのことを学んだ常東君が、中国で「教育的価値のある柔道」を広めようと尽力する姿に、大変感心しました。

次に訪れた青島柔道館では、除殿平館長指導のもと、日本で研修を受けた王華さんをはじめ、沢山の若い指導者が柔道の普及・発展のために努力しています。正課として柔道を取り入れている小学校では、「柔道体操」を見せていただきました。

柔道教育ソリダリティーのスローガンである「柔道・友情・平和」の言葉の通り、柔道を通して世界の人たちが友情を育むこと、それが平和に続く道のりであることを信じています。



青島柔道館の皆さんと記念撮影



教え子の常東氏と再会(南京柔道館)

学生ボランティア派遣事業

2015年3月2日～11日の期間、日中友好南京柔道館及び日中友好青島柔道館に濱名智男氏、光本健次国際担当師範と共に、学生ボランティアとして東海大学体育学部2年生の佐々木浩太郎君を派遣しました。

From March 2 to 11, 2015, Kotaro Sasaki, sophomore at Tokai University, Physical Education department, acting as a student volunteer, was sent along with Tomoo Hamana and Kenji Mitsumoto, master in charge of international affairs, to the Japan-China Judo Friendship Center in Nanjing and Qingdao.



指導を行う佐々木君(南京柔道館)



青島柔道館での指導の様子

佐々木浩太郎君(東海大学体育学部武道学科2年)の報告です

5年前に20人くらいから始まり、現在では約1000人もの柔道家たちが集う南京柔道館。そんな急激なスピードで発展している南京柔道館で行われた指導者研修会に参加しました。ここでは、光本健次先生の下、東海大学で半年間研修を受けた常東先生が中心となり、幼稚園生くらいの子どもたちから、一般の大人までの柔道指導をしていました。

サッカーや野球、バスケットボール等のようなスポーツでは、シュート練習やバッティング練習のような「勝つ」ための練習から始めるとしています。けれど、柔道はまず「受け身」という「負ける」練習を教える事から始めます。生徒は投げ技をかけたい気持ちが強いでしょうが、指導者が徹底して受け身を取らせることから指導するべきだと考え、今回の南京や青島の指導では、そういったことを含め指導しました。

南京と青島両方を含め、今回の研修で一番感じたことは生徒たちが本当に柔道を好きで、柔道を心の底から楽しんでいるということです。また、私が今まで耳にし、実際に目にしてきた海外の柔道と柔道発祥国である日本の柔道には違いがあるということにも気づきました。海外の柔道の楽しみ方、導入方法に違いがありました。

日本では、結果を出さなければならないという重圧もあってか、試合での結果や、勝負に専念した競技性を強く打ち出しています。一方、中国の南京柔道館では、柔道の競技性よりも、柔道を行う子どもたちへの安全性や教育性を重視していました。それが功を奏して口コミが広まり、今では約1000人もの人が集まる柔道場となりました。常東先生に聞くと、指導者の前以外での乱取りの禁止はもちろん、指導者は、道場の子どもたちに良くない匂いを嗅がせないように飲酒、喫煙を禁止しているそうです。このような徹底した道場運営を知り、柔道を通して子どもたちをよりよく育てていこうとする指導者の方々の姿勢に感激しました。

次に訪れた青島柔道館でも、柔道教室を通じ子どもたちが楽しめる柔道練習法の紹介をしました。主にウォーミングアップやトレーニング法になりましたが、現在よく使われている典型的なものとは全く違うトレーニング法を光本先生が紹介していて、とても興味深かったです。また、そのトレーニングを実践する子どもたちも楽しくやっているようでした。

今回の指導者研修を通して、中国という異国の文化を学びながら、日本の文化スポーツである柔道を教える経験ができ、とても勉強になりました。また、柔道が世界中の人たちに愛されているおかげで、その柔道を通して異文化の人たちと理解し合い、交流することができたのだと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。これからも、機会があればまたこういった活動に参加させていただきたいと思いました。ありがとうございます。

留学生柔道体験

2015年1月10日、東海大学日本語別科の留学生を対象に、光本健次国際担当師範の指導の下、柔道の体験教室を開催しました。中国、マレーシア、台湾、タイ、韓国から16名の学生が参加しました。体験教室では、東海大学柔道部の学生がチームとなり留学生に柔道を教えたり、技を披露しました。

On January 10, 2015, classrooms for experiencing judo were set up for international exchange students enrolled in the Japanese Language Course at Tokai University. 16 students participated.



初めて畳の上立った留学生たち

Siravich Chatrkaw (タイ)

柔道は、とても面白かったです。柔道は人を投げることだと思っていましたが、それ以上のものでした！柔道には安全に投げるために多くの技術がたくさんありました。授業の間は、日本の伝統的な体験をすることも出来ました。柔道は、ただのスポーツではなく、たくさんの意味があるように感じました。女子でも組まれた時は、とても強く自分では動かすことが出来ませんでした。

Luo Sheng (中国)

とても印象深い体験でした。女子柔道部の皆さんは、とても強く私の想像を超えたものでした。先生は、優しく指導して下さいました。柔道は、私には少し難しかったですが、体験授業はとても楽しく、すべてが素晴らしい経験となりました。日本伝統の柔道を私は大好きになりました。

外国からの指導者・選手受入支援事業



キルギス女子柔道チーム

Kyrgyz Woman Judo Team

2015年4月3日～4月22日の期間、キルギスより女子柔道選手4名、指導者1名を受入れました。

Four female judo athletes and one judo instructor from Kyrgyzstan were accepted from April 3 to April 22, 2015.



東海大学柔道場で練習後に山下理事長と

2015年4月3日～22日の期間、キルギスより女子柔道選手4名、指導者1名を受入れました。本法人は、昨年度より東京オリンピック・パラリンピックに向け、柔道発展途上国の女子選手の強化を支援しています。キルギスチームは、2014年に来日し強化合宿をしており、再度日本での強化合宿を希望し来日しました。本法人では、日本での滞在、練習環境の調整などを支援しています。練習は東海大学女子柔道部にご協力いただき、光本健次国際担当師範が中心になって指導を行いました。



セネガル女子柔道選手

Republic of Senegal

2015年3月20日～4月11日の期間、セネガルより女子柔道選手ジェジュ・オタンスさんを受入れました。

Female judo athlete Hortense Diédhiou from Senegal was accepted from March 20 to April 11, 2015.



東海大学武道館前にて山下理事長と

2015年3月20日～4月11日の期間、セネガルより女子柔道選手ジェジュ・オタンスさんを受入れました。オタンスさんは、現在パリに滞在し練習をしています。2016年のリオデジャネイロ五輪を目指す中で、日本での強化をはかるために来日しました。リオデジャネイロ五輪後には、引退を考えているそうですが、「セネガルで柔道学校をつくり、子どもたちに柔道やレスリングを教えたい。帰国後は、選手と指導者と両方の道を頑張りたい。セネガルは、オリンピックに出場する選手がまだ少なく、柔道が盛んではない。引退後は、子どもたちに柔道を教え将来オリンピック選手を育成したいと思っている」と語りました。現在、セネガルのサンパ市にNPO法人として学校を建設するなど指導者としても精力的に活動を行っています。



コスタリカ男子柔道選手

Republic of Costa Rica

2015年3月20日～4月20日の期間、コスタリカより男子柔道選手イグナシオ・サンチョ氏を受入れました。

Male judo athlete Ignacio Sancho from Costa Rica was accepted from March 20 to April 20, 2015.



ロベスコスタリカ柔道連盟会長、サンチョ選手、篠原コスタリカ大使

2015年3月20日～4月20日の期間、コスタリカより男子柔道選手イグナシオ・サンチョ氏を受入れました。サンチョ選手は、2013年にサンホセで開催された中米スポーツ競技大会（PJC Continental Championships）の66kg級で優勝したコスタリカ柔道界の期待の選手です。日本での練習を希望しておりましたが、今回、在コスタリカ日本大使館から協力を得て来日することとなりました。

本法人では、日本での滞在、練習メニューのコーディネートなどを支援しました。練習は東海大学柔道部にご協力いただき、光本健次国際担当師範が中心になって指導を行いました。イグナシオ・サンチョ選手は「日本で柔道の合宿を行うことは自分の長年の夢でした。この機会を大切に、自分が強くなることは勿論ですが、コスタリカ柔道界の発展のため、さらには自分に続く柔道の後輩のため、全力を尽くしたい」と話しました。日本での強化がとても充実していたそうで、11月のコーチングセミナーに指導者を派遣、その後は、コスタリカナショナル柔道チームとして来日出来るよう進めているそうです。

海外柔道普及支援事業

ミャンマー男子柔道チーム

Republic of the Union of Myanmar

2015年2月1日～22日の期間、ミャンマー男女ナショナルチームが国際交流基金の協力の下、日本での強化合宿を実施しました。2月15日～21日の期間、男子柔道選手6名、役員1名が東海大学で強化を行いました。本法人は、受入れを支援しました。

The Myanmar national team organized a training camp in Japan with the cooperation of the The Japan Foundation from February 1 to 22, 2015. While in Japan, six male judo athletes and one staff member underwent the strength training. This organization supported their visit to Japan.



小田急線東海大学前駅に到着

2015年6月に開催された第28回SEA Games (South East Asian Games: 東南アジア競技大会) に向けての練習のため、2015年2月1日～22日の期間、ミャンマーナショナルチームが来日しました。本法人では、2月15日～21日の期間の受入れを支援しました。2013年3月に受入れた選手も再来日しており、日本での関係者との再会に喜ぶ様子も見られました。

ミャンマー柔道チーム監督ヤン・ナイソー氏の報告です

ミャンマーでは、日本のように様々な選手と練習を行うことが難しい。今回多くの人と練習をさせていただき、世界トップクラスの練習方法を体験することが出来た。色々な選手たちと稽古をしたことは、新しい経験と自信になった。技術だけでなく、精神の面でも学ぶことがたくさんあった。この貴重な経験を6月に行われるSEA Gamesで生かしていきたい。研修では、日本人の精神を知ることができ、日本国と日本の文化を見ることができた。私達を支援して下さいた多くの方々に感謝したい。今回は、本当にありがとうございました。



東海大学柔道場にて佐藤宣踐名誉教授と

チームに同行した講道館派遣指導者の梅津哲也氏の報告です

ミャンマー柔道チームは2月2日から2月22日までの3週間、国際交流基金と講道館の支援・協力で行った。講道館をはじめ、三井住友海上、大正大学、筑波大学などで練習に参加した。そのうち、2月15日から21日まで東海大学で男子チームを受け入れていただいた。

練習では学生たちと同じように柔道、ウェイトトレーニング、ランニングトレーニングに参加した。ミャンマーでは柔道人口が少なく、体の大きい選手が多くない。さらにナショナルチームの中でもレベルの差があり、練習相手の確保に苦労していた。東海大学には軽量級から重量級まで、色々な柔道スタイルの選手がいるため、とてもいい練習をすることができた。普段自分より強くて大きな相手と柔道をするのがない彼らも、必死に練習についていった。練習の雰囲気もいい刺激となった。学生たちの練習への取り組み、ひとりひとりが練習を盛り上げる姿勢は、彼らの意識を高めることにつながった。他にも、基礎練習の大切さを考えることの大切さも学ぶことができたようだった。

選手たちが一番大変だったのはランニングトレーニングだった。ミャンマーは熱帯気候で日中の気温が30度以上と暑い日がほとんどである。しかし、日本での合宿中は雪が降り寒い日もあった。寒い中でランニングに気持ちが折れそうになりながらも、何とかやり切った。

東京の松前柔道塾でも受け入れていただき、子供たちと交流をすることができた。ミャンマーでは柔道クラブ等がなく、柔道をやるには体育専門学校へ入るか軍隊などに入るしかない。今回このような交流ができ、彼らにとっても貴重な経験となった。

ミャンマー柔道チームは6月にシンガポールで開催されたSea Gamesにおいて、金メダル2個、銀メダル3個、銅メダル2個、団体戦でも銀メダルを獲得することができた。こういった素晴らしい結果を残すことができたのも、選手たちの努力、現地指導者と周りの方々のサポート、日本で練習の受け入れてくださった皆さまの協力があつたからだと思っている。選手たちも多くの方々のサポートがあつて柔道ができていて、そのうえでこの結果が残せたということを実感し、多くのことを学ぶことができたようだった。改めてお礼申し上げますとともに、これからもミャンマーとのつながりが続くことを願っている。



東海大学柔道部の練習に参加



さまざまな選手と練習を行った

海外柔道普及支援事業

2015年2月7日～16日の期間、モンゴルナショナルジュニアチームの男子高校生8名、コーチ1名を受入れました。

Eight male high school students and one coach from the Mongolian National Junior Team were accepted from February 7 to 16, 2015.



大会に参加したモンゴルジュニアショナルチームの皆さん

2015年2月7日～16日の期間、モンゴルナショナルジュニアチームの男子高校生8名、指導者1名が来日し、2015年2月7日～9日に福島県田村郡三春町で開催された「平成26年復興支援全国高等学校選抜柔道練成三春大会」に出場しました。2014年の大会に続き、2年連続の出場となりました。結果は、予選リーグ敗退でしたが、日本の高校生との試合を通し貴重な経験をさせていただきました。本法人は、引き続き外国からの高校生チームの招へいを行っています。

モンゴルジュニア男子ショナルチーム監督 バットサイハン氏の報告です

三春大会に参加させて頂きましたのは、今回が2回目です。以前から日本の高校生との交流及び試合、練習を行いたいと考え、色々な人に声をかけていました。そこで山下先生初め、柔道教育ソリダリティーの皆さんに支援して頂くことになり、実現にすることが出来ました。とても感謝しています。私を含め、参加した選手全てが、大会を通して見た、感じた、勉強した事をこれからのモンゴル柔道界に生かしていけるよう努力していきたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

インターンシップ生受入れ事業

2015年2月23日～3月15日の期間、インターンシップ生として、びわこ成蹊スポーツ大学競技スポーツ学科3年の中原花歩さんを受入れました。

Kaho Nakahara, junior at Biwako Seikei Sports College, Sports department, was accepted as an internship student from February 23 to March 15, 2015.



事務局光本小澤と実習中に



びわこ成蹊スポーツ大学の村田正夫氏と

びわこ成蹊スポーツ大学 中原花歩さんの報告です

23日間という短い期間でしたが、一日一日があっという間に感じるほど私の人生にとって非常に濃い経験となりました。実習が始まる前の不安や心配による緊張は恵子さん、浩子さんはじめ周りの方々のご配慮ですぐに消え去り、人とコミュニケーションを交わすことなど毎日が楽しくて仕方がありませんでした。

実習中に毎日新聞を読む作業があり、自分が生きる世の中について知ることの大切さを感じました。私は世の情報を得る方法はいつもテレビで、興味のある話題のニュースしか見ていませんでした。しかし、新聞を読んでいると、話題は同じでも新聞社によって書き方が違ったり、目線が変わっていることを知りました。オリンピックのニュースではその実態を知り、「世の中に知らないことがたくさんある」と恥ずかしさと共に気付くことができました。

そして、嘉納治五郎先生が創られた「柔道」とは多くの人に支えられ、守られているからこそ、今も本来の柔道の良さがあつたまま存在することを学びました。柔道を教える人が居て、柔道をする人が居る。柔道をするのにも、相手がいて、仲間がいて、審判がいて、量がないとできない。柔道自体も周りの力に支えられ、協力があるから存在するのだと感じました。

今回の実習では柔道の技術や柔道について学んだというよりも、柔道を通じて多くのことを経験させていただきました。その中で、楽しいことは分け合って、困ったことは助け合い、互いのことを尊重して支え合っていく人との繋がり大切さ、選手が選手でいられるのは、卒業生や指導者やたくさんの方たちが見えないところで支えて下さっているからだということ。今ある環境や毎日に感謝することの大切さを学びました。

この10年間は柔道が好きで選手としてやってきましたが、今後は選手としてだけでなく、柔道で何か貢献できるようなことがあれば積極的に携わっていきたいです。この実習を通じ、日本だけではなく、外国にも興味を持つようになり、視野が広がりました。今後、私の柔道での活躍が耳に届くよう、また、一回り二回りと成長した姿でまたお会い出来るよう、実習で教わったことや経験を今後、生かして頑張っていきます。山下先生、恵子さん、浩子さんはじめ、東海大学柔道部、先生方本当に有難うございました。

実施事業

2015年7月～

外国からの選手受入事業



2015年7月22日～28日の期間、日中友好青島柔道館の子どもたち10名、指導者4名を受入れました。
Children from the Japan-China Judo Friendship Center in Qingdao were accepted from July 22 to 28, 2015.



2015年10月27日～11月12日の期間、日中友好南京柔道館の選手11名、指導者4名を受入れます。
Training athletes from the Japan-China Judo Friendship Center in Nanjing will be accepted from October 27 to November 12, 2015.

リサイクル柔道衣・畳支援事業



2015年11月8日～12月7日の期間、8カ国より柔道指導者を招へいし、コーチングセミナー2015を開催します。
Coaching Seminar 2015 will be held from November 8 to December 7, 2015.



全日本柔道連盟、外務省、SFTプログラム等の協力の下、シエラレオネ、カンボジアなどへ柔道衣・畳を送付します。
We will send judo uniforms and tatami with cooperation from the All Japan Judo Federation, the Japanese Ministry of Foreign Affairs, SFT Program, and other related organizations.

学生ボランティア



2015年10月、アメリカ・ウエストポイント陸軍士官学校及びアナポリス海軍士官学校等に学生ボランティア指導員を派遣します。
A student volunteer coach will be sent to the United States Naval Academy in October, 2015.



2016年冬季休暇の期間、要請に応じ学生ボランティア指導員を派遣します。
Student volunteer coaches will be sent as needed during the 2016 winter break.

外国への指導者派遣事業



2015年10月、UAE・アブダビに指導者を派遣します。
Coaches will be sent to Abu Dhabi, UAE, in October, 2015.



国際柔道研究者会 (IAJR) 支援事業

2015年12月4日～6日の期間、グランドスラム東京2015に併せて開催される柔道研究者会に山下理事長を派遣します。
Executive Director Yamashita will be sent to a judo research association from December 4 to 5, 2015.

講演会事業



2015年11月30日に、第18回交流会・コーチングセミナー2015修了式を開催します。
Our 18th exchange party will be held in November, 2015.

海外柔道普及支援事業



2015年9月17日～23日の期間、ロシア・ウラジオストク及びチェチェン共和国で日本文化普及のための柔道教室を開催しました。
A judo classroom was held in Russia and Chechnya from September 17 to 23, 2015.

柔道教室(国内外)



2015年8月望星学塾主催の「国際親善週間」を支援しました。また、「塾友杯柔道大会」、中郡柔道協会主催の「中郡柔道研修大会」を支援します。
We will support various youth judo competitions

国際中・高生柔道大会



2015年12月26日に開催される「SANIX旗国際中学生柔道大会」へイスラエル・パレスチナチームを招へいします。
We will invite the Israel and Palestine teams to the Sanix International Youth Judo Tournament.

リサイクル柔道衣・畳を募集しています！

洗濯した柔道衣を上下(帯)をセットにして、下記住所にヤマト運輸又は佐川急便でお送り下さい。また、畳をご寄付頂ける団体等がございましたら、事務局0463-58-1211(内線3524、担当:小澤)までご連絡ください。

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1 東海大学柔道研究室内
NPO法人柔道教育ソリダリティー事務局 宛

公式Youtubeチャンネルのご案内

本法人の公式Youtubeチャンネルを制作しています。コーチングセミナー2014の活動報告の動画、「ケガ防止」DVDの動画などを見ることが出来ます。是非、ご覧下さい。



柔道教育ソリダリティー



2015年度 寄付・団体会員一覧

— Supporters —



公益財団法人 竜の子財団



東海大学



HANEDA TURTLE SERVICE



USP 内海晴和企画株式会社



Shuwa
秀和ビルメンテナンス株式会社



アスカ コーポレーション



株式会社 わくわくコーポレーション



KUSAKURA



TOSHIBA

KOMATSU



TAISEI

MS&AD
三井住友海上



三菱東京UFJ銀行

三井物産(株)、(公財)竜の子財団、(学)東海大学、ミズノ(株)、日本たばこ産業(株)、羽田タートルサービス(株)、サポートセンター(株)、内海晴和企画(株)、秀和ビルメンテナンス(株)、アスカコーポレーション(株)、(株)わくわくコーポレーション、早川繊維工業(株)、(株)神田製作所、(株)東芝、(株)小松製作所、大成建設(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)三菱東京UFJ銀行

(株)アサヒ、(株)アシックス、(株)アットライズ、新井運送(株)、石井化成工業(株)、植木会計事務所、(学)加計学園、神奈川県柔道連盟、川中不動産(株)、菅公学生服(株)、九州医療スポーツ専門学校、京王電鉄(株)、京王観光(株)、(株)廣洋、相模トリアム(株)、(株)三技協、(株)鈴廣蒲鉾本店、(株)成通、セレモアホールディングス(株)、大峰堂薬品工業(株)、(株)ダイナミックスパースンズ東京、(株)築地すし好、(株)東海教育研究所、東海教育産業(株)、東海大学女子柔道部、東海大学付属相模高等学校、(株)東海ビルメンテナンス、(医)徳真会グループ、農業生産法人(有)十津川農場、(特非)日本儀礼文化協会、日本BS放送(株)、(医)白磁会中之島センタービル歯科、(株)博報堂DYメディアパートナーズ、ヒューマンズ・ネット(株)、(株)富士サービス、(株)ホームインブルーメントひろせ、(株)マツヒロ、(有)みのさんファーム、武蔵野市柔道連盟、明光産業(株)、柳田国際法律事務所、横浜市柔道協会、(一財)良知活動振興財団、(学)了徳寺学園、(学)了徳寺大学、(株)レイクウッドコーポレーション

個人会員に関しては、ホームページ中の協力者の紹介をご参照下さい。

<http://npo-jks.jp>

	個人	団体
正会員	233	18
寄付	44	9
アドバイザー	37	

(50音順 2015年9月31日現在)

入会のご案内

柔道教育ソリダリティーは、2014年1月27日より神奈川県から継続認定を受けました。本法人へのご寄付は、寄付金控除、損金算入などの税の優遇措置の対象になります。本法人の活動は、皆さまからのご寄付、ご支援によって運営されています。本法人の趣旨にご賛同の上、ご協力いただけましたら幸いです。

会員(個人) 一口 5,000円

(団体) 一口 50,000円 ※一口以上から受け付けます

寄付 特に定額はありせん

- 郵便振替 口座記号番号:00200-7-37175 加入者名:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー
- 銀行振込 三菱東京UFJ銀行 平塚駅前支店 普通口座1573953
口座名称:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕
トクヒ)ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ
横浜銀行 東海大学駅前支店 普通口座1768726
口座名称:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕
トクヒ)ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ